

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495600338	事業の開始年月日	平成26年8月1日
		指定年月日	平成26年8月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア麻生グループホーム2号館		
所在地	(215-0005) 神奈川県川崎市麻生区千代ヶ丘3-18-3		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年10月11日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は静かで緑が多い住宅街の中にあります。朝は子供たちの笑い声や犬の散歩の鳴き声などがよく聞かれていて日常を感じられる施設です。コロナ禍から少しずつ日常を取り戻し、お花見ドライブをしてみたり、植木の剪定や草むしりしているスタッフを眺めたり、秋の夜に花火大会をしたりして楽しい時間を入居者様と一緒に過ごしています。最近は面会もほぼ通常に戻り、それぞれの居室で思い思いの時間を過ごされていたり、外出や外食に出かけられとてもいい笑顔で戻られる入居者様を見ると、スタッフもとても嬉しくなります。今年度より行事も施設全体で行っています。普段はユニット同士での交流が少ないのでとても貴重な交流の場になっております。まだまだ満足のいくサービスが提供できてはいないと思いますが、少しでも入居者様の要望を組み込んだサービスの提供に努めたいと思っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年11月17日	評価機関 評価決定日	令和6年2月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「新百合ヶ丘」駅からバスに乗車して「千代ヶ丘一丁目」で下車、徒歩10分程坂道を上った所に位置しています。周囲は緑が多い閑静な住宅街で子どもたちが遊ぶ声や鳥のさえずりも聞こえてくる環境にあります。

<優れている点>

事業所理念の「ありのままのあなたを」「お一人おひとりの個性を尊重し」「なじみの暮らしを継続し」「あなたがいきいき暮らせるように」「あなたとともに」を実現しています。互いに助け合うチームワークを大事に支援に努めています。職員は正職員の割合が高く、開設時から支援にあたっている職員を筆頭に、利用者の気持ちのゆとりや穏やかで安心して日常生活を送れるように支援に努めています。家族と連携し利用者の趣味の継続にも力を入れ、ジャズが好きな人、新聞を読むのが日課となっている人、韓流ドラマが好きな人などそれぞれ趣味を楽しんでもらえるように支援をしています。

<工夫点>

利用者と家族とのつながりが維持できるように力を入れています。毎月の報告をはじめ体調に変化があった時、薬が変更になった時、介護計画の更新時などに家族にこまめに連絡を入れています。面会時にも居室でゆっくり過ごしてもらえるように声かけなど配慮しています。面会だけでなく、「家に帰ってお酒が飲みたい」「外食したい」などの一人ひとりの利用者の声も伝え実現できるように支援しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ヒューマンライフケア麻生グループホーム2号館
ユニット名	2階

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：...)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

	(参考項目 : 28)		4. ほとんどいない
--	-------------	--	------------

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社・施設の理念をスタッフ全員が見れるところに掲示し、研修やミーティングなどで理念の共有も行っている。また、スタッフの半分以上が川崎市や麻生区に居住していて、それも地域密着といえるのではないかと思います	管理者は職員ミーティング時に理念について伝えています。常に「利用者を尊重するケア」に立ち返ることを再確認する機会としています。理念に立ち返ることで日々の実践につなげています。ホーム開設時にスタッフ間で作成した地域密着型の理念や法人の理念はホーム内に掲示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会の会員として入居者全員が生活をし、最近は夏祭りなどへのお誘いもいただいています。参加するにはまだ至っていませんが、地域のお便りや自治会長のお話などで様子を伺い、次こそは！と思っております。	自治会に加入し、地域の便りも受けています。管理者は、コロナ禍中の着任により疎遠だった地域との交流も、運営推進会議を通じて、情報交換の機会も増えてきています。参加には至りませんでした。自治会夏祭りへの招待も受けています。	自治会行事等への参加や、外出時の近隣住民との交流が望まれます。ホーム機能を活かした地域住民向けの介護や認知症理解に向けた勉強会等の開催などさらなる取り組みが望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居の問い合わせなどが地域の方から増えてきています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度より自治会長が出席していただけるようになり、消防訓練や避難先などの貴重な意見を頂けている。逆に自治会員として役員になりませんか？とお話を受けることもありました。	運営推進会議は対面会議を再開しています。麻生区役所職員、自治会長、地域包括支援センター職員、利用者が参加しています。地域の情報やホームの行事、事故報告及び情報交換をしています。会議の記録はメンバーや家族に郵送し共有しています。	
5	4	○市町村との連携	必要な時は、随時連絡をし連携を図っている。コロナも落ち着き、認定調査にも	介護保険の見直し時に出向いたり、相談があれば随時連絡を取りあっています。介護	

	<p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>訪問してもらっている。年に数回、保護課の担当が様子を見に訪問され、入居者や職員と面談し関係を築いている。</p>	<p>保険の認定調査の際の訪問や川崎市保護課による状況確認のための訪問時に利用者と一緒に話を聞いています。保護課へは、サービス利用票も送っています。</p>
--	--	---	--

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年4回の身体拘束廃止委員会を開催し、不適切なケアや拘束に対しての研修を実施。会社から身体拘束や虐待の自己チェックシートを実施し各職員の意識などの把握に努め、未然に解決するようにし、身体拘束をしないケアを継続している</p>	<p>「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、全職員は年2回の研修と自己点検シートにより日頃の支援方法の振り返りを行っています。年4回開催している身体拘束廃止委員会では、離床センサーを使用していたケースがありましたが、安全性を十分に検証して中止しました。事例もあります。身体拘束の無いケアが実践しています。</p>	
7	6	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待についても身体拘束同様に、ミーティングや研修、自己チェックシートなどで職員の認識を確認し、人として、プロとして絶対にやってはいけないことと強く認識してもらい、防止に努めている</p>	<p>「虐待防止マニュアル」を整備しています。年2回、全職員向けの研修と自己点検シートにより日ごろのケアを振り返る機会を作っています。入浴時には視診も行い、虐待の早期発見や防止策を講じています。法人内に不適切なケア内部通報の仕組みがあり職員にも周知しています。</p>	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>理解が乏しいため、今後研修などを通し職員全員で理解していくよう努めている</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居のご相談から契約に至るまで管理者、ブロック長で行っている。契約や解約は基本対面で説明を行い、疑問や不安を解決するようにし、ご理解・納得ができるまで十分に行うようにしている</p>	/	/
10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者の要望や意見は、日々の関りにて取得し、行事等で反映するように努めている。ご家族様や後見人からは、お電話やメール、面会時のなどで意見や要望をいただき、運営に反映している。入居者様のことであれば、日々のケアに繋がっている。</p>	<p>利用者の希望や要望は日々のケア時に「お酒を飲みたいので家に帰りたい」などの会話から汲み取り家族に伝えています。家族とは毎月、請求書と一緒に生活の様子を手紙で伝えています。家族等の面会時や電話で積極的に交流連携に努めています。</p>	

11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや面談などで意見を聞き、反映するように努め、時には一緒に反映させるようにしている	管理者は毎月のミーティングや年2回の個人面談を通じて、意見や提案を聴く機会を設けています。月に2~3回法人内ブロック長の訪問があります。その他にも職員が法人側に直接意見等が述べられる仕組みが整備されています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の働き方については、面談などでしっかりと把握をし、できる限り沿うように努めている。悩んでいる職員には一緒に解決できるように考え、環境や条件などを見直すこともある	法人は「ケアテクニカルマイスター制度」を導入して、介護技術の向上や就労が継続できるよう配慮しています。今年度、全職員が資格を取得しています。各フロアには事務室兼休息室を配備し、休憩時間や希望休取得が出来るよう就労環境を整備しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	拠点で社内資格の取得に力をいれて取り組み、それぞれが達成感を得られている。それをきっかけに振り返ってみたり、基本に返ることが出来ている。職員それぞれの力量や性格などを把握し、個人に合った育成が出来るよう、管理者や副施設長は努めている。	年間研修計画を整備し、階層に応じた研修の機会を設けています。研修後は研修報告書を提出し共有を図っています。法人はケアマイスター（習熟度別認定）制度を導入してゴールドマイスターには手当をつけ介護技術の向上や向上心を持って働けるようにしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	職員向けのアンケートの実施をしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日々の関りで努めている		

16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>施設見学や入居の問い合わせ時に、今困っていることや悩んでいることをお聞きし、力になれるように努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>開始する前に支援の方法を見極めるようにし、その方にとって最適な支援を行う。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>関係を築けていると思うが、さらにそうなるように努力していく</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>関係を築けていると思うが、さらにそうなるように努力していく</p>		
20	11	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナも落ち着いてきているのでご家族の協力を得て、面会に来てもらったり、外出してもらったりしている</p>	<p>コロナ5類移行後は、利用者の1泊2日の外泊が可能となっています。自宅に戻り飲酒したり、馴染みの美容室や墓参りにも行っています。入居前からのかかりつけ医に通院する人もおり、馴染みの人や場所との関係が継続出来るようにしています。</p>	

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活で関係が築けるように支援し、それぞれの関係性なども把握しトラブルが起きないようにしてお互いが支えられる存在になるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて、関りを継続するようにしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	行っているが、今以上になれるように努めている	スタッフは日ごろから利用者との会話に努めています。本人の発する言葉や表情から意向を把握するようにしています。言葉ではうまく表現できない人には仕草や行動などからまた家族から今までの生活の様子も伺い思いを汲み取ろうと努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様やご本人様に聞き取りをし把握をするように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前に関してはご本人様だけでなく、御家族様からも聞き取りを行い、あとは日々の関りから把握していく		

26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様やご家族様より、希望や要望、ご意見などを取り入れ作成している	介護計画作成時には本人の思いはもちろんスタッフや主治医、看護師、家族などからも丁寧に意見を確認し、皆で共有し話し合いを深めています。特に本人の思いがきちんとと言えるように雰囲気づくりや信頼関係構築に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録や申し送りなどを参考にしモニタリングやカンファレンスの実施をし、その方に沿ったプランの作成をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要なニーズに対して、柔軟に取り組んではいるつもりだが、必要な時に取り組んでいるかは難しい		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	支援している		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	支援している	利用者一人ひとりの希望を活かして複数の医療機関との関係を密にとっています。事業所の協力医の他に入所以前のかかりつけ医での受診の継続を希望する場合は、ホームでの生活状況やバイタルなどの情報提供等で支援をしています。	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪看来訪時は、申し送りなどの記録や情報を共有したり、している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関・ご家族様と連携を図っている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	急変時・状態の変化時にご家族様や医療機関と連携を図り行っている	法人作成の「重度化対応及び看取りケアに関する指針」に沿ってホームでできることを入居契約時に説明し同意を文書にて受けています。また、急変時及び終末期における「意思確認書」に署名捺印をもらい確認をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応時の手順やマニュアルは、それぞれのフロアに掲示し、定期的の確認や見直しを行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練などで職員と一緒に身につけるように努めている。地域との協力は、オーナー様や自治会長などのお力を借りている	ハザードマップで土砂災害想定区域となり、災害を想定した訓練を行っています。消防署のアドバイスに従い垂直訓練（上階避難）の訓練をしています。災害時の備蓄品は管理者が責任者となって、倉庫に保管、保管期限等の確認をしています。	現在は災害訓練時に地域の人の参加はありませんが、災害時には地域の協力が欠かせません。日頃から運営推進会議で協力を依頼するなど、地域との協力体制を築いていくことが期待されます。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に意識をしてケアを行っている	職員は日々一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを心がけています。スピーチロックを意識した研修も事業所内で行っています。特に排泄や入浴時の介助は本人のプライバシーに配慮してさりげない声かけをし対応にも配慮するように努めています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で、可能な限り自己決定ができるよう対応するようにしている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	体調や気分がすぐれない時は、無理をせずにご自身が休まるように過ごしてもらい、気分に合わせて、ご本人様がしたいことをして過ごせるようにしています	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身でできる方は、ご自身で行ってもらい、難しい方には支援をしている	
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事形態を工夫したり、好みなどをご本人様に聞き、食事やお茶の時間が気分のいい時間になるように支援している	食に興味を持ってもらえるように、職員は利用者と一緒にスーパーのチラシを見ながら「スイカが食べたい」などの会話をしています。敬老会の特別メニューではウナギをみんなで食べ、日常と違う食事で楽しんでもらえるように工夫しています。食事の後は利用者自身で下膳したり茶碗拭きなど行うなど役割を担っています。

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスは、業者の管理栄養士が考えているメニューで補えているが、水分摂取が難しい方には味を変えたりして飲んでもらえるよう試行錯誤して対応している</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>歯科医や衛生士の助言の下に必要な方には仕上げをしたりして、個人に合った対応をしている</p>		
43	19	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自立支援を考慮して行っているが、衛生面や事故のリスクなどを考え、個々の状態に応じたケアを行っている</p>	<p>自立支援に向けて、利用者のアセスメントに力を入れ安全に個々の状態に合わせた支援をしています。排泄表などから排泄のパターンの把握や、仕草や表情からも声掛けのタイミングを見ています。オムツ使用で退院後、日中トイレでの排泄が増えてきた人もいます。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>医療機関と相談して行っている</p>		
45	20	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>体調や気分で日程の変更をしたり、同性介助の希望などを聞いたり、入浴剤を使いたい方にはご家族様に用意してもらって入れてみたりして、個々のニーズに合わせた対応を行っている</p>	<p>一人ひとりのこれまでの生活習慣を大切にしています。同性介助の希望があれば同性介助で入浴します。身体状況に影響がない程度に、湯を熱めにしたりぬるめにするなどの温度調整も行っています。入浴剤の希望があれば入れたりしています。</p>	

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人に合わせ、照明の調整・室内の温度や湿度などをご本人様の希望に沿って対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は生命に直結する支援のため、慎重に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お手伝いをやりたい方や新聞たたみやビニールたたみをご自身の仕事として認識されている方には、積極的に行ってもらうように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩をしたり、外部受診などの外出支援は行っているが、お買い物など個人に沿った外出は難しくご家族の協力を得て行ったりしている。日常では難しいため、今後行事として外出を増やせたらと思っている	本人の行きたい場所に外出できるように支援しています。日々の会話の中で思いを把握し、家族に本人の希望を繋げ外部受診や買い物、お墓参り、外食、また外泊時には、時にはお酒を飲んだりしています。今後は地域のお祭りなどにも参加していく予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を使用するための外出は出来ていないが、必要なものや欲しい物の訴えがあった時は、代わりに買い物をしてするなどして支援している		

51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>御家族からかかってきた電話はもちろんご本人に繋がるようにしている。ご自身からかけたい希望があるときは、対応をしていく</p>		
52	22	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は皆さんが気持ちよく利用できるよう決まった時間で掃除をし、整理整頓を心掛ける。</p>	<p>十分な広さがある共用空間は車いすでも安全に移動することができるように動線も配慮しています。採光の良い窓からは季節を感じることができます。観葉植物や赤い実を付けたピラカンサなど自然なものに触れる機会も作っています。事業所全体に渡り、整理整頓を心掛け清潔保持に努めています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>工夫している。席替えなどでさらに過ごしやすい環境を提供していく</p>		
54	23	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は、ご本人様やご家族などの好みに合わせ配置などの希望を聞いている。また使い慣れたものを持ち込んでもらったりしてご本人様が安心して生活できる環境づくりに努めている</p>	<p>居室は6畳ほどの広さがあり各自が思い思いに馴染みの家具を配置して居心地の良い空間となっています。仏壇や、好きな本、趣味の音楽のCD、自分で購読している新聞、小さなイスなど馴染のものを置いています。また壁には家族の写真や好きなカレンダーなども自由に貼っています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>安全な環境づくりに努めている</p>		

事業所名	ヒューマンライフケア麻生グループホーム2号館
ユニット名	1階

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：...)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない

(参考項目：28)	4. ほとんどいない
-----------	------------

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社・施設の理念をスタッフ全員が見れるところに掲示し、研修やミーティングなどで理念の共有も行っている。また、スタッフの半分以上が川崎市や麻生区に居住していて、それも地域密着といえるのではないかと思います		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会の会員として入居者全員が生活をし、最近は夏祭りなどへのお誘いもいただいています。参加するにはまだ至っていませんが、地域のお便りや自治会長のお話などで様子を伺い、次こそは！と思っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居の問い合わせなどが地域の方から増えてきています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度より自治会長が出席していただけるようになり、消防訓練や避難先などの貴重な意見を頂けている。逆に自治会員として役員になりませんか？とお話を受けることもありました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	必要な時は、随時連絡をし連携を図っている。コロナも落ち着き、認定調査にも訪問してもらっている。年に数回、保護課の担当が様子を見に訪問され、入居者や職員と面談し関係を築いている。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年4回の身体拘束廃止委員会を開催し、不適切なケアや拘束に対しての研修を実施。会社から身体拘束や虐待の自己チェックシートを実施し各職員の意識などの把握に努め、未然に解決するようにし、身体拘束をしないケアを継続している</p>		
7	6	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待についても身体拘束同様に、ミーティングや研修、自己チェックシートなどで職員の認識を確認し、人として、プロとして絶対にやってはいけないことと強く認識してもらい、防止に努めている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>理解が乏しいため、今後研修などを通し職員全員で理解していくよう努めている</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居のご相談から契約に至るまで管理者、ブロック長で行っている。契約や解約は基本対面で説明を行い、疑問や不安を解決するようにし、ご理解・納得ができるまで十分に行うようにしている</p>	/	/
10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者の要望や意見は、日々の関りにて取得し、行事等で反映するように努めている。ご家族様や後見人からは、お電話やメール、面会時のなどで意見や要望をいただき、運営に反映している。入居者様のことであれば、日々のケアに繋げている。</p>		

11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや面談などで意見を聞き、反映するように努め、時には一緒に反映させるようにしている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の働き方については、面談などでしっかりと把握をし、できる限り沿うように努めている。悩んでいる職員には一緒に解決できるように考え、環境や条件などを見直すこともある		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	拠点で社内資格の取得に力をいれて取り組み、それぞれが達成感を得られている。それをきっかけに振り返ってみたり、基本に返ることが出来ている。職員それぞれの力量や性格などを把握し、個人に合った育成が出来るよう、管理者や副施設長は努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	職員向けのアンケートの実施をしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日々の関りで努めている		

16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>施設見学や入居の問い合わせ時に、今困っていることや悩んでいることをお聞きし、力になれるように努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>開始する前に支援の方法を見極めるようにし、その方にとって最善な支援を行う。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>関係を築けていると思うが、さらにそうなるように努力していく</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>関係を築けていると思うが、さらにそうなるように努力していく</p>		
20	11	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナも落ち着いてきているのでご家族の協力を得て、面会に来てもらったり、外出してもらったりしている</p>		

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活で関係が築けるように支援し、それぞれの関係性なども把握しトラブルが起きないようにしてお互いが支えられる存在になるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて、関りを継続するようにしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	行っているが、今以上になれるように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様やご本人様に聞き取りをし把握をするように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前に関してはご本人様だけでなく、御家族様からも聞き取りを行い、あとは日々の関りから把握していく		

26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様やご家族様より、希望や要望、ご意見などを取り入れ作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録や申し送りなどを参考にしモニタリングやカンファレンスの実施をし、その方に沿ったプランの作成をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要なニーズに対して、柔軟に取り組んではいるつもりだが、必要な時に取組んでいるかは難しい		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	支援している		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	支援している		

31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>訪看来訪時は、申し送りなどの記録や情報を共有したり、している</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関・ご家族様と連携を図って行っている</p>		
33	15	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>急変時・状態の変化時にご家族様や医療機関と連携を図り行っている</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急対応時の手順やマニュアルは、それぞれのフロアに掲示し、定期的の確認や見直しを行っている。</p>		
35	16	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難訓練などで職員と一緒に身につけるように努めている。地域との協力は、オーナー様や自治会長などのお力を借りている</p>		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に意識をしてケアを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で、可能な限り自己決定ができるよう対応するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	体調や気分がすぐれない時は、無理をせずにご自身が休まるように過ごしてもらい、気分に合わせて、ご本人様がしたいことをして過ごせるようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身でできる方は、ご自身で行ってもらい、難しい方には支援をしている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事形態を工夫したり、好みなどをご本人様に聞き、食事やお茶の時間が気分のいい時間になるように支援している		

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスは、業者の管理栄養士が考えているメニューで補えているが、水分摂取が難しい方には味を変えたりして飲んでもらえるよう試行錯誤して対応している</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>歯科医や衛生士の助言の下に必要な方には仕上げをしたりして、個人に沿った対応をしている</p>		
43	19	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自立支援を考慮して行っているが、衛生面や事故のリスクなどを考え、個々の状態に沿ったケアを行っている</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>医療機関と相談して行っている</p>		
45	20	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>体調や気分で日程の変更をしたり、同性介助の希望などを聞いたり、入浴剤を使いたい方にはご家族様に用意してもらって入れてみたりして、個々のニーズに合わせた対応を行っている</p>		

46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>個人に合わせ、照明の調整・室内の温度や湿度などをご本人様の希望に沿って対応している</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬は生命に直結する支援のため、慎重に対応している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>お手伝いをやりたい方や新聞たたみやビニールたたみをご自身の仕事として認識されている方には、積極的に行ってもらえるように支援している。</p>		
49	21	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>散歩をしたり、外部受診などの外出支援は行っているが、お買い物など個人に沿った外出は難しくご家族の協力を得て行ったりしている。日常では難しいため、今後行事として外出を増やせたらと思っている</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金を使用するための外出は出来ないが、必要なものや欲しい物の訴えがあった時は、代わりに買い物をしてくるなどして支援している</p>		

51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>御家族からかかってきた電話はもちろんご本人に繋がるようにしている。ご自身からかけたい希望があるときは、対応をしていく</p>		
52	22	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は皆さんが気持ちよく利用できるよう決まった時間で掃除をし、整理整頓を心掛ける。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>工夫している。席替えなどでさらに過ごしやすい環境を提供していく</p>		
54	23	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は、ご本人様やご家族などの好みに合わせ配置などの希望を聞いている。また使い慣れたものを持ち込んでもらったりしてご本人様が安心して生活できる環境づくりに努めている</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>安全な環境づくりに努めている</p>		

2023年度

事業所名 ヒューマンライフケア麻生グループホーム2号館

作成日： 2024 年 4 月 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ禍以降、ボランティアの受け入れが出来ていない。地域密着型の施設なので、地域交流のためにもボランティアの活用が課題。	ボランティアの受け入れを行い、ホームの活性化を図り、風通しの良い施設運営を行う	ボランティアの受け入れ方や探し方を社協の担当者会に参加したり、入居者の家族に学生ボランティアの依頼をしたりしている。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月